

四中学校運営協議会の令和7年度の活動目標

令和7年度 四中学校運営協議会 主要活動企画書

1. はじめに

本企画書は、四中学校運営協議会が令和7年度に重点的に取り組む二つの主要な活動目標、「学校図書館の地域開放」と「地域コミュニティと連携した防災イベントの開催」について、その目的、内容、実施体制、期待される効果などをまとめたものです。地域社会との連携を深め、学校教育の活性化と地域防災力の向上を目指します。

2. 主要活動目標

(1) 学校図書館の地域開放

【目的】

- * 本市教育委員会の掲げるCSの意義に基づく、地域との交流拠点
- * 生徒と地域住民の交流促進による地域コミュニティの活性化
- * 学校図書館の有効活用による地域の図書文化の向上

【内容 (案)】

- * 開放日の設定: 土曜日・日曜日、長期休業期間などを中心に開放日を設定
- * 利用対象者: 地域住民(在住者、在勤者など)
- * 提供サービス: 図書の閲覧・貸出、学習スペースの提供、読書相談、地域人材を活用したセミナーやワークショップの開催(例:絵本の読み聞かせ、郷土史講座など)
- * 広報活動: 回覧板、地域情報誌、学校ウェブサイト、SNS等を活用

【実施体制 (案)】

- * 運営主体: 四中学校運営協議会
- * 協力: 四中円卓会議など自治会やシニアクラブなどの地域団体からなるボランティア
- * 連携: 清瀬市、市教育委員会、市民協働課、街活性室株式会社

【期待される効果】

- * 地域住民の学習意欲の向上と知識・教養の深化
- * 学校図書館が地域における情報拠点、交流拠点としての役割を担う
- * 生徒の地域社会への関心の高まりと主体的な学びの促進

(2) 地域コミュニティと連携した防災イベントの開催

【目的】

- * 地域住民の防災意識の向上と災害対応能力の強化
- * 防災をテーマとした地域コミュニティの活性化
- * 学校が地域防災における拠点としての役割を認識し、連携体制を構築
- * 生徒の防災に関する知識・技能の習得と地域貢献意識の醸成

【内容（案）】

- * イベントテーマ：地域特性や過去の災害事例を踏まえ設定（例：地震発生時の避難行動、初期消火訓練、防災グッズの紹介、非常食体験など）
- * 実施時期：防災週間（9月）または地域行事に合わせて開催
- * 実施場所：四中の校庭・体育館などを活用
- * 協力団体：四中円卓会議、地域の自治会、清瀬消防署、清瀬消防団第六分団、東村山警察署、医療機関、防災NPOなど
- * プログラム（案）
 - ・ 防災講話・ワークショップ（専門家や地域住民による）
 - ・ 避難訓練（地域住民と生徒合同）
 - ・ 救命救急講習
 - ・ 防災グッズ展示・体験コーナー
 - ・ 炊き出し訓練
 - ・ 地域防災マップ作成
- * 広報活動：チラシ配布、ポスター掲示、地域メディアへの掲載、学校ウェブサイト等

【実施体制（案）】

- * 主催：四中学校運営協議会ないし四中円卓会議 ※補助金の受け皿になる団体を考慮
- * 運営主体：四中避難所運営協議会を中心に、円卓会議など。
- * 協力：四中円卓会議、地域の自治会、清瀬消防署、清瀬消防団第六分団、東村山警察署、医療機関、防災NPOなど
- * 連携：市役所防災防犯課

【期待される効果】

- * 地域住民一人ひとりの防災意識と自助・共助の精神の向上
- * 災害発生時における地域連携のスムーズな実施
- * 生徒の主体的な防災学習と地域社会への貢献意識の育成

3. 今後のスケジュール（案）

- * 令和6年度中に各活動の詳細計画策定、関係機関との協議

- * 令和7年度に計画に基づき各活動を実施
- * 活動後、効果測定と課題の抽出を行い、次年度への改善に繋げる

4. 懸案事項

「図書館開放」「防災イベントの開催」いずれの事業についても、最大の懸案は、資金調達である。特に防災イベントについては、まとまった資金が必要であることから、行政の助力、特に「つながり創生財団」などの協力が不可欠と思われる。

同時に、高齢化した地域なだけに運営にかかるマンパワーの問題もある。高齢者でも無理なく運営に参加できる体制構築が重要であり、四中生徒、保護者、また地元大学生などの協力も呼びかけたい。